

作成日 1995年07月01日  
改訂日 2016年06月01日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ベンレートコート  
 整理番号 3016-13  
 供給者の会社名称 北興化学工業株式会社  
 住所 〒103-8341  
 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号  
 担当部門 環境安全部  
 電話番号 03-3279-5151  
 FAX番号 03-3279-5195  
 緊急連絡電話番号 03-3279-5151  
 推奨用途及び使用上の制限 農薬(殺菌剤)

### 2. 危険有害性の要約 GHS分類

健康有害性 急性毒性(経口) 区分外  
 急性毒性(経皮) 区分外  
 皮膚感作性 区分1  
 発がん性 区分1A  
 環境有害性 水生環境有害性(急性) 区分1  
 水生環境有害性(長期間) 区分1  
 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



注意喚起語 危険  
 危険有害性情報 H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 H330 吸入すると生命に危険  
 H350 発がんのおそれ  
 H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性  
 注意書き  
 安全対策 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)  
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)  
 粉じんの吸入を避けること。(P261)  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)  
 環境への放出を避けること。(P273)  
 保護手袋を着用すること。(P280)  
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)  
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。(P308+P313)  
 特別な処置が必要である。(P321)  
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。(P333+P313)

#### 応急措置

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)  
 漏出物は回収すること。(P391)  
 施錠して保管すること。(P405)  
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)  
 情報なし  
 情報なし

保管  
 廃棄

他の危険有害性  
 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
 化学名又は一般名

混合物  
 チウラム・ベノミル粉剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
ビス(ジメチルチオカルバモイル)ジスルフィド (別名 チウラム)	20.0%	C <sub>6</sub> H <sub>12</sub> N <sub>2</sub> S <sub>4</sub>	(2)-1820, (2)-1828	2-(5)-87	137-26-8
メチル-1-(プチルカルバモイル)-2-ベンゾイミダゾールカーバメート (別名 ベノミル)	20.0%	C <sub>14</sub> H <sub>18</sub> N <sub>4</sub> O <sub>3</sub>	-	8-(2)-1345	17804-35-2
(カーボンブラック)	(0.5%以下)	C	(5)-3328, (5)-5222	(5)-3328, (5)-5222	1333-86-4
(シリカ)	(48.2%以下)	SiO <sub>2</sub>	(1)-548	(1)-548	7631-86-9
鉍物質微粉、界面活性剤等	60.0%				

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

皮膚に付着した場合

気分が悪いときは、医師に連絡する。  
 多量の水と石鹼で洗う。  
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡する。口をすすぐ。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護  
 医師に対する特別な注意事項

ばく露による二次災害の防止。  
 情報なし

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

火災が周囲に広がるおそれがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災時に有害ガスが発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火作業は風上から行う。  
 火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。

消火を行う者の保護

周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所へ移動する。  
 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行なう。  
 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
 漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。  
 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合は、電気掃除機、ほうき等で掃き集める。火花を発生しない安全な用具を使用する。  
 大量の場合は、漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて、紙袋またはドラム缶等に回収する。  
 回収後の少量の残留物は、土砂またはおがくず等に吸収させる。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

接触回避  
衛生対策 『10. 安定性及び反応性』を参照。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする事。  
作業衣を家に持ち帰ってはならない。

保管

安全な保管条件 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。  
冷所、換気の良い場所で保管すること。  
容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
ビス(ジメチルチオカルバモイル)ジスルフィド (別名 チウラム)	未設定	0.1mg/m <sup>3</sup>	TWA 0.05 mg/m <sup>3</sup> (IFV)

メチル-1-(ブチルカルバモイル)- 2-ベンゾイミダゾールカーバメート (別名 ベノミル)	未設定	未設定	TWA 1 mg/m <sup>3</sup> (I)
カーボンブラック	未設定	未設定	TWA 3 mg/m <sup>3</sup> (I)

設備対策

取扱いについては、出来るだけ密閉された装置、  
機器または局所排気装置を使用する。  
取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のた  
めの設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具	防じんマスク
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保 護具	保護服、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態	固体
形状	粉末(平均粒子径 45 μm以下)
色	灰色

臭い

データなし

pH

6-9

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

83.0°C (セタ密閉式)

燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧

データなし

比重(密度)

0.2-0.3

自然発火温度

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。

危険有害反応可能性

情報なし

避けるべき条件

加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するお  
それがある。

混触危険物質

情報なし

危険有害な分解生成物

通常の条件下では生成しない。

加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するお  
それがある。

11. 有害性情報

急性毒性

経口 ラット(雄) LD<sub>50</sub> 4,381 mg/kg

ラット(雌) LD<sub>50</sub> 3,264 mg/kg

(チウラム20%・ベノミル20%水和剤)

経皮 ラット(雄) LD<sub>50</sub> > 5,000 mg/kg

ラット(雌) LD<sub>50</sub> > 5,000 mg/kg

(チウラム20%・ベノミル20%水和剤)

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

皮膚刺激性試験(ウサギ)：刺激性あり

(チウラム80%水和剤)

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

眼刺激性試験(ウサギ)：刺激性あり

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性試験(モルモット)：軽度の感作性

(チウラム80%水和剤)

かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する  
こと。

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性	発がんのおそれ(シリカ : NITEの分類による)
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	魚類 : コイ	LC <sub>50</sub> (96h)	0.50 mg/L (製剤換算)
	甲殻類 : オオミジンコ	EC <sub>50</sub> (48h)	0.81 mg/L (製剤換算)
	藻類	EC <sub>50</sub> (72h)	0.046 mg/L (製剤換算)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄に当たっては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制		
海上規制情報		
IMO	UN No.	3077
	Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
	Class	9
	Sub Risk	-
	Packing Group	III
	Marine Pollutant	Applicable
		Not Applicable

MARPOL  
航空規制情報  
ICAO/IATA

UN No.	3077
Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
Class	9
Sub Risk	-
Packing Group	III

国内規制  
陸上規制情報

該当しない。

海上規制情報  
船舶安全法

国連番号	3077
品名	環境有害物質(固体)
国連分類	9
副次危険	-
容器等級	III
海洋汚染物質	該当

航空規制情報  
航空法

国連番号	3077
品名	環境有害物質(固体)
国連分類	9
副次危険	-
等級	3

特別の安全対策

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号

171

15. 適用法令

農薬取締法		登録番号 第20887号
化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質	チウラム、ベノミル
労働安全衛生法	表示対象物	チウラム、ベノミル、シリカ
	通知対象物	チウラム、ベノミル、シリカ、カーボンブラック
	変異原性が認められた既存化学物質	テトラメチルチウラムジスルフィド
消防法	指定可燃物	可燃性固体類(3,000kg以上の場合)
船舶安全法		有害性物質
航空法		その他の有害物件
水質汚濁防止法	有害物質	チウラム
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物	チウラムを含有する産業廃棄物

16. その他の情報

引用文献 住友化学株式会社 ベンレートTコート 製品安全データシート 改訂日  
2013年10月15日版

記載内容の問合せ先 会社名 北興化学工業株式会社  
担当部門 環境安全部  
電話番号 03-3279-5151  
FAX番号 03-3279-5195

急性中毒に関する緊急の問合せ先

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る)  
中毒110番 一般市民専用電話 (大阪) 072-727-2499(情報料無料)

365日 24時間対応  
(つくば)029-852-9999(情報料無料)  
365日 9~21時対応

医療機関専用有料電話 (大阪) 072-726-9923(1件2,000円)  
365日 24時間対応  
(つくば)029-851-9999(1件2,000円)  
365日 9~21時対応

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料 1件につき2,000円を徴収します。

注意事項

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。